

今年度の学校経営について

令和7年4月

墨田区立立花吾嬬の森小学校 校長 向井一郎

これまで5年間、「明日が待ち遠しくなる学校」を目指し、子供たちが笑顔で元気に登校してくる姿を理想の学校像に掲げてきました。現在、登校時も授業中も、休み時間も、子供たちの生き生きとした姿があふれる学校となっています。特に昨年度は、休み時間に子供たちが先生方と一緒に楽しそうに走り回る光景を多く見るようになりました。子供たちのために、学習面でも、生活面でも、先生ががんばっている学校だと言わせてください。この4月の学級編成、校内の先生方の配置も、子供たちの笑顔のために考えました。子供たちからはどのような声が聞こえているのでしょうか。

学年度末の保護者アンケートにおいても「⑩明るく楽しく学校生活を送っている」項目でも肯定的な回答を得ています。(保護者96%)1月に行った児童のアンケートでも96%でした。※保護者の結果はホームページ「令和6年度学校だよりページ」に掲載中

しかし、実際は校内に実数において13名(学校は楽しいですかの問いに対しての否定的な回答数)が登校に対して消極的であるという実態があります。理由は様々あると思いますが、この子供達が満足感を得られるようになった時が「明日が待ち遠しくなる学校」になる日だと考えています。

まずは学級内の人間関係の安定、そしてその中での学び合いの実現、そして「自己肯定感」を抱くことができるようになることを各学級で目指していきます。「自分に自信をもて、のある子」が多く育つ立花吾嬬の森小学校になるよう努力します。

毎年、研究テーマを設け校内研を行っています。昨年度に引き続き「読解力の向上」を目指し、国語科を中心に研究を進めます。子供たちの姿の中で、文章を読み取ることに苦手意識をもっていたり、テストなどの中で長文を前にするとあきらめてしまう子供が多いということから取り組んでいることです。全学年を通し、読み取り、考え、そして書く場面を増やしていくことも行いたいです。(5/28から研究授業:2年の開始)

学校の教育方針、学年の経営方針、そして学級担任の児童への思いは、表現しないとかなかなかうまく保護者には伝わりません。双方がつながり、深く理解し合うことで、児童それぞれへの教育が成り立っていくと考えています。日常のCOCOO(オンライン上での連絡ツール)での情報共有、連絡帳等でのやりとりなどを大事にしたいです。

先生達は休み時間などにも児童と様々な形でふれあい、日々の思いや姿を捉えようと努力しています。保護者も子供の声をたくさん聞いてくれることを願っています。そして、子供たちが感じている嬉しいことも、心配なことも共有できるようにしたいです。

今年度保護者の学校に関わる負担も減らしていきたいと思います。教材等の精選により金銭的な負担を減らすことを考えました。そして、PTAさんも保護者の力を新しい形で貸してもらおうと考えてくれています。(一部の教科で市販テストを用いず、電子的なものを活用することも考えました。)以上のことを土台にして今年度の学校経営を進めていきます。地域の皆様の支えを頼りにしています。立花吾嬬の森小学校をよろしくお願ひします。

参考

墨田区教育委員会が掲げる教育目標

墨田区教育委員会では、幼児・児童・生徒（以下、子どもという）が知性、体力、行動力及び感性をはぐくみ、人間性豊かに成長することを願い、

- 広い視野をもち、自ら学び、考え、挑戦する力をもって行動する人
- 人と人とのつながりを大切にし、互いに相手のよさを認め、支え合う人
- ルールを守り、仲間や地域の役に立つために能力を発揮する人

の育成に向けた教育を重視する。

また、学校・園、家庭、地域がそれぞれ役割を担い、豊かな環境の中で、子どもたちが生涯にわたって主体的に文化やスポーツに親しむことができる人間として成長するように関係諸機関等との一層の連携を図る。さらには、教育は、学校・園、家庭、地域それぞれが責任を果たし、連携して初めて成り立つとの認識に立って、すべての区民が教育に参加することを目指していく。

平成 20 年 2 月 4 日

これを受けて立てられた墨田区教育指針の 5 つの目標（墨田区教育振興基本計画より）

目標 1 夢と希望の実現に向けて確かな学力の定着と向上

- 1 基礎・基本の定着
- 2 発展的学習の展開
- 3 非認知的能力の向上
- 4 STEAM 教育の推進（科学、技術、工学、芸術、数学をつなぐ）
- 5 教員の指導改善と資質・能力の向上
- 6 国際理解教育と英語力向上を図る取組の推進
- 7 更なる学力向上マネジメントの推進
- 8 学習意欲の向上

目標 2 豊かな人間性の育成 24

- 1 自己有用感及び自己肯定感の醸成
- 2 人権教育及び道德教育の推進
- 3 いじめ防止対策の強化
- 4 情報モラル教育の充実
- 5 SDGs の取組の推進
- 6 図書館と連携した教育活動の充実

目標 3 体力の向上と健康の増進

- 1 体力向上への取組
- 2 食育の推進
- 3 部活動における外部人材の活用及び地域移行・・・中学校

4 ヘルスリテラシーの涵養

目標 4 教育環境の整備と機能強化

- 1 教育 DX(デジタルトランスフォーメーション)の推進 (デジタル技術の活用)
- 2 不登校対策の充実
- 3 特別支援教育の充実
- 4 帰国・外国人児童・生徒への対応
- 5 教育に関する相談・支援
- 6 墨田区教育センターの整備
- 7 民間等と連携した教育活動の充実
- 8 安全・安心な学校施設の整備

目標 5 学校(園)・家庭・地域の相互連携と協働

- 1 地域資源を活用した教育の推進
- 2 援助や配慮を必要とする家庭への支援に関する連携
- 3 家庭の教育力向上への取組の推進
- 4 幼保小中一貫教育の推進
- 5 「地域とともにある学校」の運営
- 6 郷土文化を守り育てる教育の充実

教育目標

身体も心も健康で、思いやりの心を持ち、よく考え学ぶ子供

校訓 「自学自修」 自ら学び取った「知識」を「知恵」に高めることこそ、真の学びである。
(平成21年10月) 初代校長 佐藤準一先生

基本方針・・・「ゆめ」に向かって自ら学んでいく子供を育てる。

明日が待ち遠しくなる学校・・・この6年間かかっていること目標

- ① 学ぶことが楽しい学校・・・学びの保証
 - ・勉強がよく分かり、さらに多くのことを知りたくなるような授業がある学校
 - ・困った時に、安心して聞いたり、相談したりすることのできる先生のいる学校
- ② 自分のことを安心して表現できる学校・・・人間関係づくり
 - ・ひとりひとりの良さが教師からも、友達からも認められ、安心して自分のことを表すことのできる学校
 - ・自分のことも大事にし、友達のことも大事にすることができる子供たちのいる学校
 - ・しっかりとあいさつができ、友達、先生、地域の人々とも気持ちよくかかわることができる学校
- ③ 子供たちのために、みんなが力を合わせる学校・・・連携・協働
 - ・教員が「チーム」として、同じ方法を目指し、互いを磨きながら成長していく学校
 - ・保護者や地域の方々が、子供たちのために力を貸したくなるような学校

目指す学校像

- ・子どもたちの笑顔のために、教職員が互いに指導力を磨き合い、チームとして進んでいく学校

目指す児童像

- ・ゆめの実現のために目を輝かせて、学習に主体的に取り組むことのできる児童
- ・自分のこと、友達のこと、自校のこと、地域のことを好きだと胸を張って言うことのできる児童

目指す教師像

- ・児童のゆめの実現のために学び合い、努力を続ける教師

「ゆめ」を育む教育の実践のために

1 確かな学力の向上

日々の授業の工夫

- ① 読む力、書く力、話す力、聞く力を伸ばす授業づくり

- ・様々な学習の中で読解力、表現力を高める。・・・校内研「国語」と連携
- ・表現する場を学年に応じて工夫してつくる。

タブレット端末の効果的な活用だけではなく、
鉛筆と紙を用いた作文も大事にする。(追加)

- ・読書好きの児童をさらに増やす。更に質も高める。(追加)

② 課題解決の力を伸ばす授業づくり

- ・児童が身近な事象の中から不思議だなという疑問を見つけ、調べてみようという気持ちを抱き、主体的に学んでいこうとするような授業展開を心掛ける。

(墨田区、地域には学習材となるものが多く眠っている。それらも活用し生活科、理科、社会科などの授業展開の工夫していく。

図画工作科などにおいては、葛飾北斎、歌川広重などの江戸時代の浮世絵作品も効果的に活用する。→社会科の地域資料としても十分に活用することができる。)

③ 話し合い、考えを深めることのできるような授業

- ・教師と、友達と、相互にやり取りをしながら、自分の考えを深めるような場面を意図的に設けた授業を進める。

(電子黒板と黒板と児童のノート、タブレットをつなげる工夫をする。)

日々の学習の工夫

① 目的をもった家庭学習を進める。

※宿題から、自学へつなげていく。・・・各種復習教材の効果的な活用

※児童には確実に返却し、次に生かしていく。

※ドリルパークなどの活用で弱点を克服していく。

② 朝学習の時間を生かし、読書、基礎学習、前単元の振り返りを行う。

※読書習慣を身につける。

※ミニ作文などを各活動も工夫する。(月曜朝会との連携)

③ 補習の時間を設け、次の学習に進む前の不安を取り除く。(振り返り学習の充実)

※インプット～アウトプット (1時間の授業の中で行えると良い。)

環境を生かす

① タブレット端末を生かした授業の工夫

自分で撮影したり、映像などを見たりして、具体物を通した授業の工夫

② 区学力調査、東京ベーシック・ドリルや診断テストを活用した学力の把握により、一人一人の力をつかんで指導を進める。

※ふりかえりシートや、問題データベースも積極的に活用する。

③ 地元、地域の教材を積極的に生かし、直接本物や人物に触れるような授業づくりに心がける。

・地域教材の積極的な活用 (地元企業等との連携)

・ゲストティチャーへの協力要請

- ・墨田区学校支援ネットワークの利用等
- ・昨年度の校内研の成果を生かす。力を貸してくれる方の発掘。

2 豊かな心の育成

学校生活の中で

- ① 特別の教科道徳の時間では、よく考え話し合いながら自己を振り返ることができる場面をつくる。
- ② 異学年交流の場を増やし、上級生は下級生を意識し、下級生は上級生にあこがれの気持ちを抱くことができるようにする。
- ③ 学校内、学級内での人間関係づくりを進めるために、仲良し遊びの時間を設けたり、自主的な係活動などを工夫したりする。
不審な者への警戒心をもつことは大切であるが、日常の中での子供同士の普通のやり取り（挨拶やさりげない言葉かけなど）が今よりも増えることを目指したい。
※良いやりとりがあった場合は、思い切りほめる。
- ④ ふるさと（墨田区 立花）を意識した教育活動を進める。結果として自校、地域を大切にしたいという気持ちが生まれ、地域の一員であることを学年に応じて意識することを目指す。

教師としての努力

- ① 校内で生じている児童の諸問題を、定期的な会議の中で共有し対応をしていく。
- ② 特別支援教育を一層充実させ、すべての児童が、自分の夢の実現のために生活することを、皆で支える。
- ③ 一人一人の輝きを表現できるような場を用意する。
※まずは児童を一人の人間として大事にする。
※良いことを見つけたら思い切りほめる。
※良くないことがあれば、真剣に叱る。（感情で指導はしない。）

3 体力の向上と健康増進

連携

- ① 基本的な生活習慣が定着するように家庭との連携を強化する。
COCOO やシャボテンログなどの有効活用
- ② 健康教育、食育の充実を図るために区教育委員会や保健所との連携をとる。

実践

- ① 体育の授業内容を充実させ、時間内での運動量が増加するように心がける。
（体育成果発表会で、その成果を披露する。6月7日土曜日）
- ② 休み時間の遊びが充実するように、体を使った遊びの呼びかけをする。また、遊びの様子を把握する。（教師として無理をせずに）
- ③ 日々の生活の中で環境の衛生に気を付ける。

4 特色ある教育活動

- ・「立吾しぐさ」を大事にする。
- ・幼稚園、保育園、中学校とも連携し、それぞれの機関との円滑な接続を進める。
- ・地域の環境を生かした教育を進める。(工場、神社、川、団地、商店街など)
- ・地域の人材を生かした教育を進める。(ゲストティチャーの積極的な活用)
- ・老人施設でのボランティア活動(先方との話し合いにより実現)

5 特別支援教育・教育相談体制の充実・・・いじめの早期発見と適切な対応

- ・なのはな学級の運営の充実を図るための工夫をする。
- ・巡回指導の充実を図るほか、校内での児童の情報を共有できるようにする。
- ・「個別指導計画」「学校生活支援シート」などの作成を個別に行う。
- ・すべての児童が安心して生活できるような教育環境づくりをする。
- ・生活指導連絡会等を生かし、児童についての共通理解をする場を設ける。

(週一回の連絡会での情報交換)

- ・スクールカウンセラーにより、面接や相談の場を増やしていく。
- ・年3回のいじめアンケートやアイチェックなどにより、児童の生活の様子をつかみ、生活の実態や抱える問題を把握する場を増やす。

※校内委員会と不登校対策委員会の定期的に開催し、実態を把握した上で対策を練る。

※いじめの定義(いじめ防止対策推進法第2条)

「いじめ」とは、児童等に対して、当該児童等が在籍する学校に在籍している等当該児童等と一定の人的関係にある他の児童等が行う心理的又は物理的な影響を与える行為(インターネットを通じて行われるものを含む。)であつて、当該行為の対象となった児童等が心身の苦痛を感じているものをいう。

6 開かれた学校づくり 地域、保護者との連携

- ・学習の成果を「学芸発表会」で公開する。(11月8日土曜日)
- ・PTAとの円滑な情報共有、協働を進める。
- ・学校だより、ホームページ等を通した学校の様子を保護者に知らせる努力をさらに推進する。
- ・学年、学級から保護者への発信も工夫して行うようにする。
- ・学校運営連絡協議会の充実を図り、地域の声、保護者の声が、学校経営に反映できるように心がける。(学校関係者評価の結果も生かす。)

7 保護者への協力要請

- ・私費の負担額を減らす努力・・・必要な物は購入する。それ以外はできる限り区で示したものを利用する。
- ・PTA活動等への勧誘・・・加入者を増やす。 加入によるメリットの宣伝